東串良町立池之原小学校　学校だより
はばたけ！　けやきっ子
令和6年度
12月17日発行

ものごとは心で見るんだよ　ほんとうに大切なものは，目に見えないんだ

校長　上葉智明

On ne voit bien qu'avec le coeur. L'essentiel est invisible pour les yeux.
～ ものごとは心で見るんだよ。ほんとうに大切なものは，目に見えないんだ ～

フランスの作家サン＝テグジュペリ(Saint-Exupéry)の著書『星の王子さま』(フランス語原題; Le Petit Prince)の中で，キツネが王子に語りかける言葉です。本書は第二次世界大戦中の1943年に出版されて以来，200以上の国と地域の言葉で翻訳されている名著です。

20年以上前の某自動車会社のテレビCMで『モノより思い出』というキャッチコピーが毎日のように流れ，一度は耳にされた方も多いのではないでしょうか。それから20年以上経った現在も，身のまわりにモノがあふれていて，ちょっと車を走らせてお店に行けばたいていのモノは買うことができます。また，外出しなくても，スマートフォン等を操作すればすぐに欲しいモノ(モノによりますが)が手に入る世の中です。

米国コーネル大学のトーマス・ギロヴィッチ(Thomas Gilovich)教授が20年にわたり研究を続け，『モノは幸福感を与えてくれるが，効力がすぐになくなってしまう。一方で，思い出や体験はその幸福が長く続く。』という結論に至ったそうです。ギロヴィッチ教授は，そう考えた理由として次の三点を挙げています。

❶ **すぐに慣れしまう** ⇒ 新しくてワクワクするモノも，すぐに慣れて普通になってしまう。
❷ **もっと欲しくなってしまう** ⇒ 新しいモノを買うと，新たな期待が生まれ，より良いモノを求めてしまう。
❸ **まわりと比較してしまう** ⇒ 所有物は比較をもたらす。他の人のモノと比較してしまい，劣等感を味わうことも。

もちろん，我々人間には目に見えるモノは必要です。生きていく上で最低限必要な衣食住に関するモノ，生活に喜びや楽しみをもたらすモノ等は欠かせません。モノを購入することでストレスが解消されることもあるかもしれません。

しかし，それら以上に思い出や体験等，目に見えないモノも大切だと思います。ギロヴィッチ教授は「**思い出や体験はあなたの中で有形物よりも大きな部分を占めます。人はモノを心から好きになることはできます。自分のアイデンティティと結びつけて考えることもできるでしょう。それでもなお，モノとあなた自身は離れたままです。しかし，思い出や体験は実際にあなたの一部になります。私たちは，自らの思い出や体験の蓄積でできているのです**」と指摘します。

これまでの学校だよりでも『子供が一番落ち着く所は，お母さんに両手で“ぎゅっ”とされたときやお父さんの膝の上に座ったとき(R5.5)』，『知ることは，感じることの半分も重要でない(R5.7)』，『子供の好奇心を育てる(R6.7)』，『読書から得られたものは誰からも奪われない一生の宝(R6.10)』等々，親子の愛情，触れ合い，知識や感動は目には見えないけれど，とても大切なものについてお伝えしてきました。まわりの人から愛されている安心感，家族や友達等のまわりの人を思いやる心も決しておカネで買うことはできない大切なものです。一人一人の生命もそうですね。

保護者や友達，教師やまわりの人達とのかけがえのない思い出や豊かな体験は，きっと子供たちの心身の大切な一部となり，健やかな成長の糧となることでしょう。

人権週間　本校は世界人権デー（12月10日）を含む12月4日～10日を校内人権週間と設定し，全校で人権について考える取組を行いました。人権も，目には見えないが大切なものですね。この機会に各ご家庭でも，人権について話し合っていただければありがたいです。

日新公いろはうた

そしるには　二つあるべし　大方は　主人のために　なるものと知れ

【大意】　臣下が主人の悪口を言うのは二通りある。主人を思うあまり言う悪口と自分の利害からくる悪口である。君主たるものは，よく判断して自分の反省の資とすべきである。

東串良の子供たちのために

12月5日(木)，東串良町小中一貫教育研究会が本校で行われました。本校と柏原小，東串良中の3校の職員が連携して東串良町の児童生徒の教育にあたることを目的とした研究会です。

学習指導部会で話合う3校の職員

当日は，柏原小・東串良中の職員が本校の授業を参観した後，3校の職員が学習指導・生活指導・保健指導・特別支援教育の分科会に分かれ，それぞれの課題について共通理解の下，解決策について有意義な情報交換ができました。3校で協力し今後の指導にいかしていきます。

遠足や修学旅行等の体験を通して学びました

11月22日(金)，1～5年生は秋の一日遠足を実施しました。

1年生は鹿屋市方面，2年生は花瀬でんしろう館，3年生は肝付町歴史民俗資料館等，4年生は肝属地区清掃センター等，5年生は上野原縄文の森等に，それぞれ生活科や社会科の学習を兼ねた充実した一日になりました。

肝付町民俗資料館（3年生）

11月27・28日の両日，6年生は修学旅行を実施しました。

目的地は主に熊本方面で，熊本城の復興の様子や山鹿市の八千代座を見学したりグリーンランドで楽しい時間を過ごしたりして，学習するとともに楽しい思い出を作ることができました。

山鹿市にある「八千代座」

火の用心

12月3日(火)　3校時に，火災を想定した避難訓練を実施しました。年間に複数回避難訓練を行いますが，回を重ねる毎に真剣にスムーズな避難ができています。

空気が乾燥しやすく，火災が増える時期です。

お互い火の取り扱いには十分気を付け安全な暮らしを送りたいものですね。

寒い冬を健康に！

空気が乾燥するため感染症等の流行が懸念されます。規則正しい生活，バランスのとれた食事や適度な運動，手洗い・うがいの徹底，適切なマスクの着用等で寒い冬を健康に過ごすことができるようお願いします。毎食後の歯みがきやむし歯治療等もお願いします。

レッツビギン7

池之原小特別支援教育コーディネーター
わかば学級い組担任　木佐貫 陽子　文責

特別支援教育を通して子どもや保護者の方々と接する中で「愛着」という壁にぶつかることがあります。子どもが健全に育っていくためには，まず，母性性を必要なだけ十分に与えること。そのあと順次，父性性が機能していくことが何より重要です。母親が･･･父親が･･･というのではなく，この両面性は，バランスよく働けばいいのではなく，必ず順序よく子どもの心に届かなくてはなりません。

「母性性」とは，家庭の中で子どもや家族を受容，許容，承認する力です。安らぎ，憩い，くつろぎの体験を十分にさせることで，子どもに包み込まれている安定感や見守られているという安心感を実感させるものです。けして甘やかすと言うことではありません。

「父性性」とは，子どもの成長にしたがって，さまざまな規律，約束，義務，努力，緊張と言ったことを教えていきます。約束を怠ったりすれば，叱られると教えるのです。

家庭内でこの「母性性」が豊かに与えられ，「父性性」によりしつけられるという両面性が順次機能することが，学校生活・社会生活をスムーズに過ごすためにも必要なのです。

＊次号に続きます

参考文献『はじまりは愛着から』　佐々木　正美　著

地域学校協働活動

11月26日(火)　1～4校時，5年生の家庭科の授業で，地域学校協働活動のご協力をいただきました。

今回は，4人の地域の方々のボランティアにより，ミシンの使い方について学ぶことができました。おかげさまで，充実した学習を進めることができました。ありがとうございました。

12・1月の主な行事

12月
21日(土)　PTA主催門松作り，しめ縄飾り作り
24日(火)　2学期終業式
25日(水)　冬休み～1／7

1月
8日(水)　3学期始業式
11日(土)　土曜授業　昔の遊びを楽しもう(1年生)
15日(水)　鹿児島学力・学習状況調査(5年生)～16日
17日(金)　小中音楽会(3年生)
　　東串良中入学説明会(6年生)
20日(月)　鹿児島をまるごと味わう学校給食週間～24日